



# さんて会ニュースレター

## NEWS LETTER SANTÉ

### TOPICS

- ◆ 教室開講70周年記念式典延期のご案内
- ◆ 令和4年度さんて会総会書面開催
- ◆ ニューフェイス紹介 杉野 正晃 先生
- ◆ 寄稿 家政学と家事と我が生活 井口 恒男 先生
- ◆ 寄稿 余筆／2022-春夏 照坊
- ◆ 寄稿 令和4年体験記 井奈波 良一先生
- ◆ お知らせ 事務局より

#### ご案内

#### 教室開講70周年記念式典延期

延期しておりました定期総会ですが、新型コロナウイルス感染症がまだ収束しない状況を鑑み、今回も書面にて開催いたします。教室開講70周年の記念式典につきましては、残念ながら来年度以降に延期いたします。楽しみにしてくださった先生方には大変申し訳ありませんが、ご理解の程何卒よろしくお願い申し上げます。

なかなか参集することが出来ず、お互いの近況を知る機会も少なくなっています。今回、総会の書面開催の一つとして、会員の皆様の近況を紙面にてお伝えいただく機会を設けます。つきましては、同封の用紙にご自身のご近況をお書きくださり、名簿情報の確認用紙とともに同封の封筒にてご郵送ください。集めましたご近況を名簿とともに皆様にお届けしたいと思います。少しでも多くの会員の先生方のご様子を知ることができますよう、ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



#### 書面開催

#### 令和4年度さんて会総会

##### 1. 会長挨拶

永田 知里

新型コロナウイルス感染症が拡大して2年半も経ちましたが、いまだに収束せず、今年度もさんて会総会は、書面開催とさせていただきます。今年度は岐阜大学医学部公衆衛生学講座が開講され70周年に当たり、本来ならば皆様とともに集い祝賀会を開くべくところ、これもかなわず、残念でなりません。祝賀式典は来年度以降に開かせていただきます。

Withコロナの日常生活も模索され、行動制限の緩和や5類への見直しなど、いよいよ出口戦略に向かうものと期待したいところです。とはいえ、冬を迎え新たな感染拡大も心配されるなど、予断を許さない状況です。行政、医療の場でコロナ対応にあたっておられる皆様方には、引き続きのご尽力に、ただただ、感謝申し上げますばかりです。

さて、2020年に岐阜大学と名古屋大学と統合により設立された東海国立大学機構ですが、この4月に執行体制が代わり、岐阜大学の学長は医学部からの吉田和弘先生、機構長は引き続き名古屋大学の松尾清一先生です。両大学の信頼や協力関係が築かれ、大きな成果が生まれることを願います。一方、当教室では2年ぶりに、チュートリアル「地域産業保健コース」を開講し、対面授業を行いました。この2年は対象学年が2年生から4年生に変更されたための空白でしたが、学年が変わり、行政や公衆衛生により興味を抱く学生が増えたように思えます。さんて会幹事長の稲葉静代先生には、非常勤講師として新型コロナウイルス感染症についてお話いただきましたが、学生も大変熱心に聞いていたようです。医師としても、臨床医だけでなく様々な選択と貢献があること、大きな視野で考えて欲しいと思います。研究も碧南市小学校中学校における調査研究では、コロナ禍で研究が滞ることが多い中、順調に進みありがたいことです。スタッフには新しく大学院生も加わり、新たな研究展開の原動力となってもらえればと期待しております。会員の皆様には、引き続きのご指導、お力添えをお願い申し上げます。

## 2. 令和4・5年度のさんて会役員について

長年にわたり、幹事、幹事長を務めていただきました大澤一郎先生が幹事を退任されます。永年にわたりご功労いただきましたこと心より感謝申し上げます。令和4・5年度は、以下の幹事、監事の体制にご承諾いただきたく存じます。異議等ございましたら、10月末までにさんて会事務局（ph@gifu-u.ac.jp）にご連絡ください。

会長：	永田知里
幹事：	稲葉静代（幹事長）
	井口恒男
	岩田弘敏
	岡本祥成
	永谷照男
	高塚直能
	田中 耕
	中村こず枝
	川地俊明（会計）
	和田恵子（会計）
監事：	梶川正勝
	大庭志野

## 3. 令和3年度（2021年度）さんて会一般会計報告

収入：	前年度より繰越	854,849
	2021年度会費（49名*3000）	147,000
	2021以前の年会費（5年分*3000）	15,000
	利 息	6
	計	1,016,855
支出：	金融機関手数料	7,301
	消耗品費	42
	郵送費	32,618
	慶弔費	30,000
	計	69,961
次年度繰越		946,894



上記会計につきまして、監事の梶川正勝先生、大庭志野先生に監査していただき、特に問題ございませんでした。

## ニューフェイス紹介

## 杉野 正晃 先生



皆様はじめまして。2022年4月より岐阜大学疫学・予防医学教室に社会人大学院生として入学し、さんて会に入会させて頂きました杉野正晃と申します。歴史ある当教室でこのような機会を頂き大変恐縮ではございますが、自己紹介させていただきます。

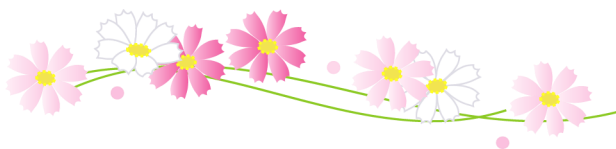
2013年に岐阜大学医学部医学科を卒業し、岐阜県総合医療センターで2年間の初期臨床研修後、2015年より松波総合病院の総合内科にて現在まで勤務しております。

大学院入学にあたり約10年ぶりに母校の岐阜大学に戻りましたので、大学生であった当時の行きつけの店にいくつか行ってみると、店主が代替わりされていたり、建物はそのままに中は違うお店になっていたりと、時の流れを感じました。ただ、自然豊かな母校の構内の様子はほとんど変わることなく、当時の思い出が蘇るようで、大変懐かしく感じました。楽しかったと思える大学生活を過ごさせて頂いたのも、先生方やスタッフ、仲間に恵まれたおかげであり、改めて感謝致しております。

私は総合内科医として若輩者ではありますが、日々の入院や外来、救急当直業務にあたり感じる場合があります。生活習慣病のコントロールが悪い方が夜間に急変され脳卒中や虚血性心疾患で救急搬送される。喫煙歴の長い方が呼吸困難で生活の支障を訴えられる。現在の医学は偉大で様々な治療法や選択肢があり、臨床医は日々それを患者さんに届けるべく勉学に励んでいるのですが、何か少し後手に回っているような感覚をもつようになりました。普段リスクファクターを抱えながらも病気が発症されて

いない患者さんがなんとか発症せずに過ごすことができれば…そもそもそのリスクファクターを抱えなくてもよいようにできれば…それで健康寿命が延びれば国民全体にとってもhappyなことであり、医療従事者の負担軽減にもつながり、さらには議論のあるところだと思いますが国の医療費の抑制に少しでもつながるのではないかと考えております。研修医の頃の地域実習先で学んだ言葉を借りれば、予防を主として治療を従とすることができればと思います。ただ、普段の自身の外来に通院してくださっている患者さんがさらに大きな病気になる未来にならないようにとは思っても、一次予防、二次予防問わず、案外定まった見解のない事柄が多いと感じます。そのような疑問を何か一つでも解決できれば、後の研究につながっていくような研究ができればと思います、大学生時代に研究室実習でもお世話になった当教室に再びご指導をお願いしたところ、快く引き受けてくださりました。

研究者として知識も経験も未熟でご迷惑ばかりおかけするとは思いますが、永田知里先生、和田恵子先生、山川路代先生はじめ、皆様温かく迎えてくださり、心よりお礼申し上げます。今後の研究生生活の礎を築くべく取り組んで参りますので、今後とも宜しくお願い致します。



中央は溶連菌性咽頭炎のCenter scoreのRobert M Centor先生です。  
(左から3番目が杉野さん)

## 寄稿

## 家政学と家事と我が生活

井口 恒男

コロナ禍の続く中で、封入体筋炎り患の妻の病状はじわりじわりと進行し、支援介助の我が時間は増加の一途であり、「今晚の食事は何をを作るの？」との発言は、5、6年で逆転して、私が受ける側である。2022年のゴールドンウィークも息子や孫たちとの食事会などを除くと、在宅生活はほとんど家事ごとが多い。

家政学の目的は家族・家庭を保持増進し「よりよい生命力を作り出す」という機能の実現とも言われているが、対象となる事項は多い。家事ごとだけでも、家屋の内外の3S(清掃、整理、整頓)は手を抜けない。

朝は主に食パン、チーズ、ヨーグルト、バナナ、コーヒーなどが主、昼は前夕の残り物に飯またはうどんなど、卵を放り込むなどする。夕食はメインディッシュに工夫。

蛋白質を欠かさないよう肉・

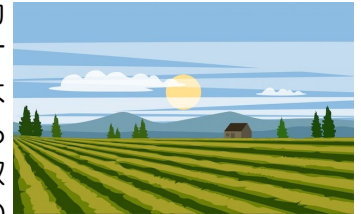
魚・大豆類を使用。野菜は多種に留意する。週の4、5回は小生が調理。3回ほどは妻の友人たちが差し入れや直接調理を担当してもらう。筑前煮、おでん、野菜と肉の炒め物、焼肉、すき焼き、湯豆腐類などはほぼ独りです。料理によっては手間のかかるものがあるが、他の仕事、園芸や清掃などをしながらの料理には電気調理の時限ボタンを使い、焦げ付きを防ぐ。2つ以上の仕事を同時にするときには時限ボタンは有難い。時にはテレビを診ながら調理もある。

妻の介助で遠出できない身には、娯楽としてNHK・BS映画をよく観る。数十年の経過を経ているのが多いが、意外と名画で名優が観られる。金曜日は西部劇が主で中高生の頃よく観た

ものが多い。ところで、ソフィアローレンの映画「ひまわり」は40年ほど前に観たが、哀愁帯びた音楽はYouTubeで今も聴ける。撮影



の地はウクライナだったようであるが、この2月不条理な戦争の場となり、欧州の大穀倉地帯がたいへんな状況になっている。ロシアは帝政の頃から周辺の小国をいじめてきた歴史がみられ、日露戦争もそれに近い、長引くと大変なことになったかも、当時のアメリカが仲裁に入り終戦となった、外交力の賜物？。ウクライナは言語上もロシアとは兄弟のように思われるが、穀倉地や小麦の取り合いの利権争いなのか、世界中が悪影響を受けている。第3次大戦だけは避けたい。



百歳時代の到来ともいわれるが、今のところ晩酌を続け、家事に、菜園に身体を使い、適度に些細な趣味事に取り組んで、生活習慣病もなく、定期健診をやっていけば、まだまだ生きれそうである。まずは、交通事故、転倒の防止である。要介護者の1割以上の原因が不慮の事故のようであり、注意を怠らないようにしている。

やるべきことを優先すると、我が趣味ことは進行漂うが、1日1日を大事に生きたい。遠出は困難な状況であり、美術館やコンサートなどはテレビで我慢である。

仕事面では、この4月から15年間常勤やパート勤務を続けた老健を辞め、週2回午後3時間、老人ホーム併設診療所の業務のみとなった。昼食を妻と摂る毎日となった。前の老健へは10年以上続けていた「歌の時間」をボランティアで月1、2回歌っている。声量は未だ何とか2オクターブを保持するが、声質は悪化している。わが身の健康保持の一助でもある。

以上、コロナ禍も下火となりそうで、秋には講座開設70年の総会開催を期待し、小生の近況とします。



## 寄稿

余筆／2022-春夏

照坊

漱石の没後100年であった2016年、朝日新聞が「猫」を一年間で紙上連載（漱石の多くの作品は、朝日新聞・社員としての文筆業務であり、朝日新聞としては自然な対応）、書店が文庫本の平積み販売、マスコミでの特集などの漱石関連催事を日常で見つけることができた。一方、今年は鷗外の没後100年だが、これまでに鷗外関連の催しが目に届かない。書店でも鷗外作品が目立つことはなく、漱石に比し影が薄いことがよく判る。

青空文庫から、鷗外の短編や随筆をあちこち拾い読みすると、「孤高」という印象が強い。残念ながら、多くの人々に読んでもらいたいという意図や工夫は汲みとれない。例えば、独語、仏語、英語などの単語や短句を注釈なく、ごく自然に挿入している。凡人の僕は、辞書を繰るしかない。カタカナ表記のみの外国語も多く、綴りが判らず、なおさらやっかい！このくらいの外国語は、「知識として当たり前」という居高さの一端である。明治後期～大正前期の衆人に向けた筆跡でないことは明らか。鷗外は、超エリート軍医の本職を持ち、文筆は余技として（生活の糧を得る仕事ではない）、自身の興味／体感／思慮などをまとめた備忘録のように思われる。これゆえに、漱石に比し、鷗外の著作は今日でも一般での人気度が低いのだろう。



文芸界の玄人は、鷗外の作品の中では小説、評論、随筆などより、もっとも晩年に上梓した伝記を高く評価しているようだ。ことに、「澁江抽斎」、「伊沢蘭軒」、「北条霞亭」の三部作である（発表順）。ところが、これらの主人公である三名の氏名や素性を知る人はとても少ないだろう。僕もまったく知らないため、小説や随筆に比べとっつき難く、今後、読んでみようか？という程度の興味しかない。三作とも当時の東京日日新聞と大阪毎日新聞（合併し、今日の毎日新聞）が連載した作品だが、このような未知に近い人物の伝記が衆人を楽しませたとはとても思え

ない。「漱石-朝日新聞」への対抗意識だったのだろうか？

鷗外は、陸軍軍医の最高位（陸軍軍医総監=中将格、つまり鷗外の上級官は陸軍大将と天皇のみ）まで昇ったが、高木兼寛（海軍軍医総監）と争った脚気の病因論では、結果として鷗外の主張は科学的に間違いだった。このため、陸軍は戦地だけでなく国内でも、多くの将兵の生命を脚気で失った。本職である科学・医学者を自負していただろうが、脚気論争の顛末（なぜ間違ったか）を吐露せず逝ったのは納得できない。学問に誠実であれば、自身の誤りを省察し、後人に伝えるべきであった。

漱石にも、一つの「なぜ？」が尾を引いている。漱石は、大学を卒業する少し前に、本籍地を東京・牛込から北海道・岩内に移している。「現地を訪ねたことはない」と漱石が自ら書き残しているが、転籍や岩内の理由は語っていない（岩内=言わない／駄洒落?）。巷が憶測したもっともらしい理由が、「兵役を免れるため」である。明治期の徴兵制には、身体・疾病要件の他に、いくつもの兵役免除規定があった。学生であることもその一つだが、卒業すれば兵役を課される可能性がある。一家の戸主/家長であること、長男であること、一定額以上の納税などでも兵役を免除された。漱石は、免除既定の何れにも該当せず、卒業前に戸籍を分離独立させ、戸主/家長となって兵役を免れたのでは？と推測されている（当然だが、鷗外は軍医として日清、日露戦争の実戦地に赴いている。そういえば、戦場の有様を描写した作品はあるのだろうか?）。

人は我が身のすべてをさらけ出すことはできず、同時代を生きた漱石と鷗外も疑義を招く「無為」を為した。「無為」に対する個々の内省に加え、他方の「無為」をどのように観ていたかも気に掛かる。

拙い記憶に寄り掛かった雑文です。間違いがあれば、お知らせ下さい。2022.8.28.



## 寄稿

## 令和4年体験記 園芸

井奈波 良一

筆者は、前報で筆者の令和3年における三つの体験を報告したが、今回は、引き続き、筆者の令和4年における新たな五つの体験記を記す。

## 1. 大龍寺だるま

筆者は、新型コロナウイルス感染症が流行する以前、毎年4月中旬、満天星（どうだん）つつじ見物のため岐阜市粟野にある大龍寺を家族と訪れていた。その際、この寺の本堂の前には巨大なだるま大師座像が安置されていることを見て知った。さらに、テレビニュースで大龍寺のだるま供養の様子が放送されていたことから、だるま供養日にだるまを買いに行ってみたくなった。

令和4年のだるま供養開催日をネットで調べてみると、1月の第2土曜日となっていた。そこで、令和4年1月9日、だるまを買いに、新型コロナウイルス感染を気にしながら恐る恐る大龍寺を訪れた。意外にも参詣者はまばらであった。本堂を訪れた際、入り口に掲載されていたポスターを見て、実際のだるま供養開催日は、1月の第3土曜日であることを知った。正月三が日の土曜日は計算に入れないらしい。というわけで、ゆったりと参詣でき、無事だるまと座布団を購入できた。新型コロナウイルス感染症が終息した暁には、是非ともだるま供養に行きたい。

帰宅後、説明書に従って、だるまに右目を入れた。ネットで調べてみると、「だるまの目は阿吽（あうん）を表していると言われていて、左目は阿（物事のはじまり）、右目は吽（物事の終わり）のことを指すため、最初に物事の始まりを表す左目を入れるのが基本で、願いがかなったら右目を入れる。---間違えたからといって心配することはない」<sup>1)</sup>とのことであった。この点に関して、庶民文化研究者の町田忍氏<sup>2)</sup>が、「江戸時代には、あらかじめ開眼された縁起だるまが売られていました。なぜかという、達磨大師のパワーは目力にあると信じられていたからです。最初から両目を入れたほうが、御利益や魔除けになるというわけです。」

と述べていたことが面白かった。

後日、大龍寺に購入しただるまの産地を電話で問い合わせたところ、地元ではなく、はたまた日本一のだるま産地として有名な群馬県高崎市でもなく、埼玉県越谷市のことであった。想定外であったのでネットで

「越谷だるま」について検索してみた。その結果、越谷市のサイト<sup>3)</sup>に行きつき、「越谷だるまは、川崎大師や柴又帝釈天など、関東を中心に

全国各地へ届けられています。---越谷だるまは、他のだるまに比べて、色が白く、鼻がやや高い上品で優しい顔立ちが特徴です。---縁起物として、一般的な赤いだるまをはじめ、紅白だるまや五色だるま（紫、白、赤、黄、緑）などがつくられています。---祈願するときはだるまの左眼を描き入れて神棚に備え、願いが成就したときは右眼を描き入れて神社に奉納します。なお、地域によって作法が異なることがあります。」とのことであった。ということで、大龍寺だるまの目の入れ方が基本と異なる<sup>1)</sup>ことが不思議に思えたが、単純な間違いというより作法の違いによるのではないかと考え、納得した次第である。

さて、縁起物のだるまを飾っている者の割合が気になった。本年（令和4年）正月三が日に、ウェザーニューズが筆者にとって時宜を得たこの点に関するインターネットアンケート調査<sup>3)</sup>を実施していた。その結果（9642名回答）を掲載した記事<sup>2)</sup>によると、家にだるまが「ある」と回答した者の割合は、全体では18%であった。興味深いことに、だるまの産地の群馬県や長野県ではかなり高率（それぞれ46%、45%）であった。筆者は岐阜県の割合を知りたかったが、掲載されていなかった。岐阜県はだるまの産地でないため平均的なレベルと推測される。

ウェザーニューズは、同じ記事<sup>2)</sup>の中で、だるまが縁起物である主な理由にも言及し、①お腹の縦線で達磨大師の衣を表現している、②だるまの髭と眉が、それぞれ縁起物の亀、鶴を表現している、③体の色が魔除けの赤である、を挙げていた。これらの理由のうち、②については、あまり知られていないとのことであった。



## 2. 土浦全国花火競技大会代替企画花火テレビ鑑賞

筆者が何度も見に行っていた土浦全国花火競技大会は、ここ2年間新型コロナウイルスの影響により中止になった。とても残念であった。幸いにも、その代替企画の花火が、「土浦の花火」～後世に伝える匠の技～<sup>1)</sup> という名称の下、令和4年1月15日から2月5日までの土曜日および2月11日金曜日の夜約30分間、5回にわたって打ち上げられた。土浦全国花火競技大会実行委員会<sup>1)</sup>によれば、この花火大会は、「花火大会等の中止が相次ぎ、依然厳しい状況にある花火業界を応援するため実施」されたものであった。参加花火事業者は、日本全国17都道府県の45社にのぼった<sup>2)</sup>。混雑による新型コロナウイルス感染を避けるため、会場は非公開となっていた。

現地には行けない筆者は、退職後に念願かかって購入した4K有機ELテレビを使って、実行委員会からYouTubeで配信された一連の土浦代替企画花火を視聴した。特に興味深かった企画は、最終日2月11日実施の「土浦と大曲の花火師の夢の競演」<sup>1、3)</sup>であった。YouTube花火中継の解説者は土浦市長と大崎市大曲の株式会社小松煙火工業の花火師であった。ライブでYouTube視聴したが、画像が暗く背景の違いがわからなかったため、土浦市と大曲町の二元中継かと思って観ていた。翌日観た、数名のYoutuberが投稿した動画でも、土浦花火だけでなく大曲花火打ち上げも出ていた。どうやって個人が遠く離れた2か所で撮影して一本の動画にすることができるのだろうかと思惑に思った。その後、茨城新聞の記事<sup>3)</sup>を見て、花火打ち上げはいずれも茨城県土浦市内の霞ヶ浦湖畔で実施されていたことがわかり、納得した次第である。

最も興味を持った花火は、大曲側出品の創造花火であった。実況中継中、解説者の声に比べて花火の音が小さかったため使用された曲がわからなかった。たまたま音量を高くしてYouTubeを再生したところ、ラヴェルの歌唱版Bolero（ボレロ）（独唱者は不明）であることがわかった。ボレロは、大曲で開催される花火



会のスターマインの曲としてよく使用されてきた。最近では2021年8月20日にも曲にボレロを使ったスターマインが打ち上げられている<sup>4)</sup>。一番有名なのは、筆者もテレビで視聴した2014年（88回大会）の大会提供花火である<sup>5)</sup>。元トランペット奏者のセバスチャン小川<sup>6)</sup>は、「ボレロのしっかりと前に進んで行くような、次第に、次第に力強く盛り上がっていくような高揚感のあるリズムは、様々な旋律によく合う。」と述べている。この理由で、ボレロが花火の音楽としても採用されたと思われる。今ではボレロ花火は、大曲花火の十八番になった感がある。なお、周知のことと思われるが、北京五輪2022では、フィギュアスケートの宇野昌磨選手やドーピング検査で陽性となったカミラ・ワリエワ選手がボレロの音楽に合わせて演技していた。ところが、興味深いことには、1930年1月にラヴェル自身が指揮したボレロのオリジナル録音を聴いたAmemiya<sup>7)</sup>は、あまりに情熱的に演奏する現代のスタイルは見当違いで、作曲者ラヴェルは、むしろ気怠いような音楽スタイルを志向していたのではないかと述べている。

話は元々企画をした土浦側から外れてしまったが、後日、最終日の企画に関する多くのYouTube投稿動画を観直してみた。霞ヶ浦を望む土浦市街を背景に、両サイドから著名な花火会社によって打ち上げられた色とりどりの豪華な花火を、邪魔な花火の煙が薄く鮮やかに撮影した数々の動画を視聴して、この企画のすごさを実感した次第である。まさに「夢の競演」<sup>1、3)</sup>であった。しかし、今後、このような異例の企画が続くことがない事を切に願っている。

## 3. 園芸 2

筆者は平成4年2月にも、前年に引き続き美しさにひかれて、アネモネ、パンジーなどの苗を購入した。前年は、ランシユラス、アネモネ共に、寒さか水のやり過ぎのためか花が続かず、枯らしてしまった。そこで今回は、寒さを避けるため玄関の軒下で栽培し、さらにへたりが観られた時点で水やりを行った。その結果、枯らすことがなかった。しかし、想定外の出来事が起こった。追加で購入したアネモネの咲いた花びらだけが次々に虫食い状態になっていったのだ。害虫を探したが、見つからなかった。数日後、水やりに行くとアネモネの葉に糞のような小さい黒い塊が多数見られた。そこで、ネットで検索するとアネモネには多種の害虫が

つくことがわかった<sup>2)</sup>。害虫の一つとして夜間に花卉や若い葉を食べるといふナメクジが取り上げられていた。とりあえずナメクジには効果がない手持ちの殺虫剤（ベニカ×ファインスプレー 住友化学園芸）を施して、様子を見ることにした。数日後、アネモネの根元の土の上に糞の形態から推察して「ヨトウムシ」らしき害虫<sup>2)</sup>が一匹いるのを発見し、駆除した。幸いにも散布した殺虫剤は、この害虫に効果が期待できると記載されたもの<sup>2)</sup>

であった。この殺虫剤の効果がない「ネキリムシ」や「ハマキムシ」<sup>2)</sup>でなくてよかった。

3月6日に視聴したNHK Eテレの趣味の園芸によればラナンキュラスは、うまく管理すれば翌年も咲くということであった。挑戦することにした。一方、驚いたことに、前年（平成3年）冬に購入した花の中で、一年草と言われているピオラ一株が正月から咲き広がり、また二度は咲かないと思っていたおやゆび姫という赤い小型チューリップが3月中旬に咲いた。

さて、筆者は、今年までラナンキュラスとアネモネの花だけを見て、どちらかを言い当てるのが困難であった。そこでネットで調べてみた。きなりのすもも氏<sup>1)</sup>によれば、ラナンキュラスは花びらのすぐ下にガクがあり、アネモネはガクアジサイに似て花びらに見えるのがガクで少し離れたところに葉っぱのような苞葉がついているとのことであった。しかし、ラナンキュラスにも苞葉があり、苞葉が花に近いと見分けがつきにくくなるという。両者の大きな違いは葉っぱと茎にあり、ラナンキュラスは、

葉っぱは菊のように丸みをおびてぼってりしていて、茎は太く産毛のようなものがびっしり生えている。一方、アネモネは、葉っぱが苞葉のようにとげとげしていて、茎は細く産毛が少なくツルンとしているとのことであった。ところが今回購入したアネモネのなかにはラナンキュラスと茎の

太さと大差ないものがあった。

さて、ネットで検索しててたまたま、ラナンキュラス、アネモネ共に、プロトアネモニンなどの毒性分を持っていて、茎を折った時などに出てくる汁液に皮膚がふれると水ぶくれが生じたり、腫れたりするので注意が必要であること<sup>3)</sup>を知った。これまで知識のないまま、終わった花を処分するため茎を素手で折っていた。今後、十分気を付けて作業したい。

#### 4. 解剖実習

筆者は、現在、いくつかの事業場の産業医に選任され、その活動の一環として職場巡視を原則月1回実施している。特定化学物質を扱っている事業場の検査室を職場巡視することがあるが、今のところ平成20年に特定化学物質に指定されたホルムアルデヒドを取り扱っている事業場はない。

ホルムアルデヒドといえば真っ先に解剖実習が思い浮かぶ。筆者は2年前に定年退職したが、医学部の柳戸地区移転後、産業医ではなく衛生管理者に選任され、原則週1回職場巡視していた。その活動の一環として年1回解剖実習室の巡視も行っていた。解剖実習では健康上特にホルムアルデヒド暴露が問題となる。平成20年にホルムアルデヒドが特定化学物質に指定されるまで、筆者を含めて、ほとんどの医学生はホルムアルデヒドの有害性に無頓着に解剖実習を行ってきたと推測される。筆者は、大学在学中に、午後1時から夜中まで、半年間、マスクをすることもなく、実習したが、ホルムアルデヒド暴露の健康影響があるかどうかは明らかでない。政令でホルムアルデヒド発散抑制措置実施が義務づけられたため、解剖実習室は、解剖台ごとに局所排気装置が設置されるなど、全く様変わりした。しかし、局所排気装置が設置されているにも関わらず、解剖実習室の作業環境測定結果を見ると、ホルムアルデヒド濃度が管理濃度を超えていることもあって困惑した。

令和4年6月中旬、毎日の日課となっているMedical Tribuneのメールマガジンに目を通して、「遺体からプリオン病の未診断例を世界初発見 長崎大、解剖実習前のスクリーニング検査で」<sup>1)</sup>と題する記事に目が止まった。この記事によれば、「長崎大学大学院感染分子解析学分野の西田教行教授らが、解剖実習の安全性を確保する目的で、2020年度から医学部・歯学部で行われる解剖実習用の提供遺体に対し、脳組織のプリオンのスクリーニング検査を





75体に実施したところ、プリオン病未診断の1例を世界で初めて発見し、N Engl J Medに報告した」とのことであった。

ヒトでのプリオン病は、致死率100%で狂牛病の感染例がよく知られている。しかし、「その多くは、加齢に伴い自然発生的に発症する極めて希な急速に認知症が進行する孤発性プリオン病である」という。

困ったことには、「プリオンは一般的な滅菌法では不活化されずホルマリンにも抵抗性があるため、プリオン感染リスクが解剖実習を行う学生やスタッフにつきまとう」とのことであった。

西田教授は、「全国で年間3000体の遺体が実習に使用されており、今後他大学と連携して全国的検査体制を構築して、遺体に含まれるプリオン病未診断例の頻度を明らかにする必要がある」としている。これまで知らぬが仏と通してきたが、運悪く解剖実習で用いた遺体から感染したプリオンが原因で認知症が発症し亡くなる可能性があると考えとぞっとする。是非とも検査体制を構築してほしいものだ。そうしないと極端な場合、これを機会に解剖実習自体がなくなる可能性も考えられる。今後、検査の有無が職場巡視の確認事項の一つになると予測される。

また、この問題は、結核感染が問題となっている病理解剖にも当てはまるのではないかと考えた。そこで、ネットで調べてみると、国立精神・神経医療研究センターの水澤英洋理事長を代表として2012年3月に「プリオン病の安全な剖検と病理検査のために」が刊行され、2017年6月には第2版として「プリオン病の剖検マニュアル」が発刊されていることがわかった<sup>2)</sup>。その中で、残念なことに「---特に、日本のプリオン病の剖検率は平均15%以下と、他の先進国に比し極めて低く、わが国のプリオン病の診断精度は低いという批判を受けています。」と記述されていた。さらに「---ホルマリンではプリオン蛋白は不活化しません。」との前述と同じ記述もみつけた。

西田教授らが開発した高感度のプリオン検査法は、ホルマリン処理後も有効とのこと、「解剖実習の安全性を高めるだけでなく、手術前や臓器提供前にプリオン検査を実施できる環境を整備し、先進医療の安全性向上に寄与したい」とのことであった<sup>1)</sup>。病理解剖・検査の安全性にも役立つと思われる。

## 5. 東京日帰り旅行

筆者は、ここ2年間、新型コロナウイルス感染症蔓延のため東京に行っていなかった。電車は休日より平日の方が空いていると思って、



コロナの第6波が下火になった6月下旬の平日、NHK Eテレ日曜美術館のアートシーンで紹介されていた山種美術館で開催中の「生誕110周年 奥田元宋と日展の巨匠—福田平八郎から東山魁夷へ—」を観るために東京に日帰り旅行に行ってきた。岐阜から名古屋までの在来線は想像以上に混んでいたが、コロナ感染予防のためか以前より静まり返っていた。早く名古屋駅に着きたかったが、乗車した新快速は、想定外に進行がゆっくりしていた。ここ2年間名古屋にも行っていなかったので、新快速がこんなに遅いのかと愕然とした。時間的には各駅停車並であった。新幹線のぞみ号の自由席も想定以上に混んでいたため途中から指定席に変更した。幸い隣に乗客はいなかった。新型コロナ騒動以前より混んでいる印象であった。電車内では換気が効いているので感染することはほとんどないと聞いていたが、終始ビクビクした旅であった。

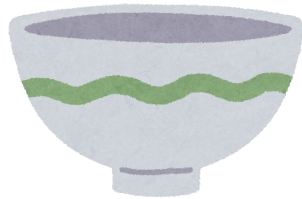
新幹線のぞみ号を品川駅で下車した後、山手線に乗り換え恵比寿駅で下車後、山種美術館に向かった。以前美術館に行った時、気づかなかったかもしれないが、当美術館行きの標識があり、かなり楽に到着することができた。

館内には、日本画家・奥田元宋の代表作である「奥入瀬（春）」と「同（秋）」が展示されていた。後者は大作で、「「元宋の赤」と呼ばれる赤が際立つ」<sup>1)</sup>迫力のある画であった。また、師である児玉希望の画も展示されていた。さらに帝展・日展で活躍した福田平八郎、川合玉堂、東山魁夷等の巨匠たちの画も展示されていた。館内は、コロナ対策が行き届いており、また平日であったためか、予想通り混んでおらず、落ち着いて鑑賞できた。筆者は、福田平八郎の「筍」が特に気に入って、売店で同画が印刷されたクリアファイルを購入した。こういうクリアファイルの収集は、筆者の趣味の一つである。

美術館の帰りに昼食を取った。場所は、新型コロナウイルス感染を避けるため山種美術館と

駅のほぼ中間点に位置する恵比寿プライムスクエアタワービルの広場とした。広場に来ていたキッチンカーで購入した塩レモン鶏唐揚げ弁当は旨かった。食べ終わった弁当容器ゴミを引き取ってくれた販売員に「美味しかったです。」とお礼を述べたら、筆者がこのビルの関係者かと思ったのか「毎週1回ここに来ているので、来週、他の種類の鶏唐揚げ弁当もぜひ召し上がって下さい。」と返された。今後も、コロナ禍に負けず、頑張ってもらいたいと思った。

昼食後、恵比寿駅に向かったが、駅近くにオープン仕立ての美濃焼の店があり、岐阜県出身者として親近感を覚えた。店内には、買い物客も数名いて、美濃焼が東京でも売れるのかと妙に感心した。筆者が進化を知らないだけかもしれないが、美濃焼とは思えないおしゃれで値段も手頃な皿や器が並んでいた。次回、山種美術館に行った時にも店が残っているといいなと思った。



その後、恵比寿駅から山手線で東京駅に引き返し、急ぎ土産を買って、博多行きの新幹線のぞみ号に飛び乗り、帰宅した。残念ながら帰りの新幹線も混んでいた。

以上のように、筆者は、医療従事者であるがため、新型コロナウイルス感染にビクビクしながらの東京日帰り旅行であった。しかし、在来線も新幹線も想像以上に混んでいて、経済が回っており人々のたくましさを知った次第である。と、筆者の新型コロナウイルス感染に対する恐怖が減った訳ではない。

7月中旬になって全国的に新型コロナウイルス感染症患者が再び爆発的に増え、第7波に突入した。筆者は、感染したくないので当分の間、再度の東京行きは控えることとした。今回、思い切って東京に行かなかつたら、いつ行けたかわからなかったと思うとラッキーな体験であった。

## 文献

### 第1章

1) 赤津陽一：だるまの目はどちらから入れるの？ 入れるタイミングと方法。BECOS Journal 2019年7月29日。 <https://journal.thebecos.com/daruma-select/#:~:text=%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E7%9A%84%E3%81%AB%E3%81%AF%E5%90%91%E3%81%8B%E3%81%A3%>

<https://www.city.koshigaya.saitama.jp/citypromotion/rekisibunka/dentokogyo/daruma.html>, (参照 2022-01-26).

2) 目はどちらから入れるのが正解？ 縁起だるまの秘密と正しい作法。ウェザーニュース 2022年1月8日。 <https://weathernews.jp/s/topics/202112/110135/>, (参照 2022-01-26).

3) 越谷だるま。 <https://www.city.koshigaya.saitama.jp/citypromotion/rekisibunka/dentokogyo/daruma.html>, (参照 2022-01-26).

### 第2章

1) 土浦全国花火競技大会実行委員会：土浦全国花火競技大会代替企画花火を打上げます。 <http://www.tsuchiura-hanabi.jp/kantan/?detail=true&id=401&cat=1>, (参照 2022-02-15).

2) 【茨城県】土浦の花火～後世に伝える匠の技～ 2022年は5日に分けて分散打ち上げが行われます。号外ネットつくば市。 <https://tsukuba.goguy.net.jp/2022/01/16/tsuchiurahanabi-2/>, (参照 2022-02-15).

3) 土浦と大曲の花火師競演 茨城の霞ヶ浦湖畔で華やか2千発。茨城新聞クロスアイ 2022年2月11日。 [https://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f\\_jun=16445767222802](https://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=16445767222802), (参照 2022-02-15).

4) 山谷勉：「大曲」さながら 夜空にエールの花火。朝日新聞デジタル 2021年8月21日。 <https://www.asahi.com/articles/ASP8N71KRP8NULUCOOP.html>, (参照 2022-02-15).

5) たかたか：2014大曲の花火～大会提供花火「ボレロ」～。2014年8月25日。 <https://www.youtube.com/watch?v=cvKOLkys1dU>, (参照 2022-02-15).

6) セバスチャン小川：モーリス・ラヴェルの「ボレロ」とは？名盤と特徴をオーケストラ奏者が解説！突き抜けるトランペット！一つのリズムと楽器のオンパレードで熱狂直球ドストレートのクラシック音楽！超絶美女バレエダンサーが作曲者に依頼した名曲！限られた演奏形態と編成の意味とは？ しろくろ猫のおもむくまま 2018年1月18日。 <https://shirokuroneko.com/archives/5660.html>, (参照 2022-02-15).

7) Amemiya R：モーリス・ラヴェル指揮による「ボレロ」オリジナル録音（1930年）（vinylman1973return 2019年5月11日投稿）に対するコメント。 <https://www.youtube.com/watch?v=eCMRhYdR014>, (参照 2022-02-15).

## 第3章

1) きなりのすもも：ランタンキュラスとアネモネの見分け方. Green life 2021年3月30日. <http://kinarinosumomo.livedoor.blog/archives/25525197.html#>, (参照 2022-03-16).

2) 植物栽培ナビ：害虫病気対策 アネモネの育て方. 監修：矢澤秀成. 住友化学園芸 eグリーンコミュニケーション. <https://www.sc-engei.co.jp/cultivation/details/229.html?showtab=3>, (参照 2022-03-24).

3) uti：非常に美しい。でも毒がある身近な花・14種. ailovei 2017年7月19日. <https://ailovei.com/?p=75528>, (参照 2022-03-16).

## 第4章

1) 陶山慎晃：遺体からプリオン病の未診断例を世界初発見 長崎大、解剖実習前のスクリーニング検査で. Medical Tribune 2022年6月13日.

<https://medical-tribune.co.jp/news/2022/0613546010/>, (参照 2022-03-13).

2) プリオン病の剖検マニュアル. [http://prion.umin.jp/file/prion\\_autopsy\\_manual.pdf](http://prion.umin.jp/file/prion_autopsy_manual.pdf), (参照 2022-03-13).

## 第5章

1) 【特別展】生誕110周年 奥田元宋と日展の巨匠－福田平八郎から東山魁夷へ－ 2022年4月23日(土)－7月3日(日). 山種美術館リーフレット.

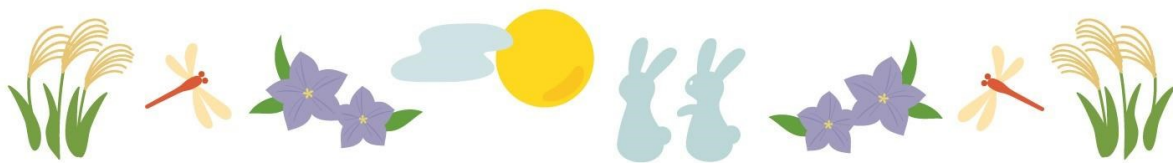


## お知らせ

## 事務局より

本年度の会員名簿作成のためのご案内を同封しました。ご自身の連絡先をご確認の上、**10月14日までにご返信**いただきますようお願い申し上げます。

さんて会ニュースレターは、疫学・予防医学分野のホームページからいつでも閲覧、ダウンロードできます。ご覧になる時には、パスワード“sante2020”を入力してください。



## さんて会

〒501-1194 岐阜市柳戸1-1  
岐阜大学大学院医学系研究科  
疫学・予防医学分野(旧公衆衛生学講座)  
担当: 和田恵子

電話: 058-230-6412

Fax: 058-230-6413

E-mail: [ph@gifu-u.ac.jp](mailto:ph@gifu-u.ac.jp)

Home page: <http://www.gifu-u.ac.jp/~ph/>

## 【編集後記】

朝晩は秋の気配を感じるようになりました。高温多雨の夏の影響で、我が家の庭では多くの植物がすくすく育ち、子供たちの入学記念樹のゆずとレモンがたわわに実っています。アゲハ蝶がこんなに柑橘類の木に寄ってくるとは知りませんでした。まさに教科書通りでした。運動会、文化祭、修学旅行も復活し久しぶりの準備に右往左往しますが、本人たちにも実りがありますように。そして、来年にはさんて会総会と70周年パーティで皆様にお会いできること祈念しています。

近況報告のご記入ぜひお願いします！ご寄稿(原則3,500字まで)もいつでも受け付けています、[ph@gifu-u.ac.jp](mailto:ph@gifu-u.ac.jp)まで。

